

# CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2017年12月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



## 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.70 <塾におけるデジタルとアナログの饗宴！>

早いもので、2017年が終わろうとしています。読者の皆さんにとって、今年、どのような年でしたか？

塾業界を簡単に振り返っておくと、2017年は、大阪の北摂地域に、他県の大手学習塾が進出して、今までの北摂地域の塾的な構図を変えていく初年度になったということがありました。馬淵教室と類塾のガチンコの生徒獲得競争の均衡が崩れ、そこに他県の大手学習塾が出た格好になりました。

また、全国的に言えば、大手学習塾の苦戦と、ここにきて優秀な中堅塾を買収して、その地域の進出の足掛かりにするというようなM&Aがありました。

中小塾に関しては、例年以上に厳しい状況になったところが多かったと思います。

さて、今回は、1年の締めくくり塾経営の本質にかかわることを書きたいと思います。

学習塾は、属人性という宿命から逃れられません。どんなにマニュアルがしっかりしていようと、それを使う人によって、結果は違ってきてしまいます。つまり、人間相手であるため、その人間(生徒・保護者)を相手にする人間(教室長・講師)の個性が結果に影響を与えてしまうのです。つまり、学習塾は、そこにいる人間の個性(=属人性)から完全に自由になれないのです。ここが、学習塾経営の最大の前提です。

それでは、この塾の宿命である属人性を乗り越える道はあるのか、もしあるとすれば、どういう点にあるのか、ここを今回は、考えていきたいのですが、結論を先取りして言うと、完全に属人性を乗り越えていくことは出来ません。しかし、ある程度は、属人性を乗り越えること、いや、薄めることは出来ます。

それは、塾運営にデジタルを導入することです。例えば、授業報告をライン等のメールで行うとか、家庭学習の管理を「見える化」して(ラインやアプリなどで)、保護者と塾側で管理するというように、デジタルのコミュニケーションツールを最大限活用することです。

デジタルですので、ルールを決定し、そのルール通りに行っていくと、保護者とは必然的にコミュニケーションが取れるようになります。このコミュニケーションは、デジタルなので、ほとんど人間の個性を反映させないように出来るはずですが。

また、授業に関しても映像を上手く活用して、講師間の指導レベルの差を埋めることで、属人性を超えることが出来ます。

しかし、デジタルだけでは、どうしても塾運営は出来ません。リクルートの受験サプリ(現スタディサプリ)は、当初急激に会員数を増やしましたが、今は、伸び悩んでいます。

それは、デジタルのコミュニケーションでは、人間は、満足をしていないからです。人間は、人間にしか感動しないのです。

こんなことを20数年前、大手学習塾の室長会議で言ったところ、すかさず会長から、自然を見たって人間は、感動する

じゃないかと否定されてしまいましたが、例えば、自然を見て人間が感動するのは、人間を自然のうちに見るからです。ということかと言うと、自然の素晴らしさは、人間と比較した上で(人間の目を通して)受け止められているのです。ですから、動物は、自然を見ても感動しません。動物は完全に自然の一部なので、自然を客観視出来ないからです。

話を元に戻しましょう。デジタルのコミュニケーションだけでは、人間は、飽きてしまうのです。ですから、どうしてもアナログのコミュニケーションが必要になってきます。予定調和的なコミュニケーションではなく、何を言うか想像できないようなコミュニケーションが必要なのです。

皆さんは、ロボットに承認されても嬉しくないですよね。それと同じで、子どもたちも自分自身が重要だと思っている人から、コミュニケーションをとってほしいのです。どうしてもアナログな、ヒューマンタッチが必要なのです。

学習塾の仕事は、コミュニケーションを通じて全てなされます。ですから、デジタルツールでコミュニケーションをとって良いものと、ヒューマンタッチ(アナログ)でコミュニケーションをとって良いものを明確に分けて、塾運営をすることなのです。結局、一番大事なコミュニケーション場面では、ヒューマンタッチが求められることになるのですが、ここに力を注ぐことが出来るための保障として、デジタルツールを徹底的に活用することです。

題名に書きましたが、まさに学習塾運営は、デジタルとアナログの宴なのです。この2つを楽しく使うことが塾では、これから益々重要になってくるのです。

2017年もお世話になりました。2018年もよろしく願います。

それでは、読者の皆さん、良いお年を！

**【編集後記】**

**情報交換ゼミナール特別企画  
 「生徒が集まる小学英语の創り方」開催！**

小学校の英語教科化に向け、塾へのニーズが高まる「小学英语」。英語のプロ・MBA浅井がファシリテーターを務める勉強会です。

【会場】 東京会場：1月18日(木)10:00~13:30  
 大阪会場：1月25日(木)10:00~13:30

【詳細】 <http://management-brain.com/seminar-english.pdf>  
 詳細は、上のURLをご覧ください。弊社(MBA)までお問い合わせください。

お問合せはコチラ→TEL045-651-6922

Mail: mailadm@management-brain.co.jp

## 数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.34

気づくと今年も残り10日あまりですね。バタバタと走り回っているうちに年の瀬が来てしまいました。本当に速いものですね。

ところで最近、2人の塾長さんから「塾の平均塾生数はどのくらい?」と聞かれたことがありました。

難しいご質問です。

「塾」ということと言えば、在籍者が数万人の塾もあれば、ヒトケタの塾もあります。その平均を示す統計数値など見たことがありません。

では、教場当たりの塾生数ではどうか。

これなら必ずしも見あたらないわけでもありません。

経産省が毎月、「特定サービス産業動態統計調査」というのを行っています。

12月11日にこの調査の2017年10月分の速報値が発表されました。

全国の事業所数(=教場数)と受講者数とが載っていますので、計算をすれば教場当たりの平均受講生数はすぐに出てきます。

結果は、10月末日現在で110.71人でした。

とはいえ、この調査には1つ大きな欠陥があります。

調査の対象となる事業所が中堅規模塾ないし大手塾の1万余事業所(10月は10,357事業所)に限られているため、中小・零細塾(約4万事業所)の実態が全く反映されていません。

ならば、ちょっと乱暴な計算をしてみるかと、思いつたのが今回の数字です。

長野県では毎年、5月1日現在で小中高校生の通塾者調査を行っています。

以下が、17年の通塾者数です。

通塾者数(長野県)	
小学1年生	2,203 (人)
小学2年生	2,987 (人)
小学3年生	3,668 (人)
小学4年生	4,334 (人)
小学5年生	5,034 (人)
小学6年生	5,492 (人)
中学1年生	5,175 (人)
中学2年生	6,495 (人)
中学3年生	7,962 (人)
全日制高校1年生	2,150 (人)
全日制高校2年生	2,083 (人)
全日制高校3年生	2,347 (人)

これを経産省「特定サービス産業実態調査」に載っている15年7月現在の長野県の塾の教場数792で除すると、教場当たりの生徒数が出てきます。

長野県の1教場当たりの塾生数は63人ということになります。ただ、これは長野県の数値であって、全国平均ではありません。

1教場あたりの生徒数(長野県)	
小学1年生	2.8 (人)
小学2年生	3.8 (人)
小学3年生	4.6 (人)
小学4年生	5.5 (人)
小学5年生	6.4 (人)
小学6年生	6.9 (人)
中学1年生	6.5 (人)
中学2年生	8.2 (人)
中学3年生	10.1 (人)
全日制高校1年生	2.7 (人)
全日制高校2年生	2.6 (人)
全日制高校3年生	3.0 (人)
合計	63.0 (人)

そこで、全国平均を引っ張り出すために、文科省「全国学力・学習状況調査」に載っている17年4月時点の全国と長野県の公立中3生の通塾率とを比べてみます。

**全国の公立中3生の通塾率は61.4%。**

**長野県の公立中3生の通塾率は51.3%**

全国は長野県の1.2倍でした。

以下、さきの長野県の教場当たりの塾生数を1.2倍したものです。

1教場あたりの生徒数(長野県×1.2)	
小学1年生	3.3 (人)
小学2年生	4.5 (人)
小学3年生	5.6 (人)
小学4年生	6.6 (人)
小学5年生	7.6 (人)
小学6年生	8.3 (人)
中学1年生	7.8 (人)
中学2年生	9.8 (人)
中学3年生	12.1 (人)
全日制高校1年生	3.3 (人)
全日制高校2年生	3.2 (人)
全日制高校3年生	3.6 (人)
合計	75.7 (人)

結論を言ってしまうえば、全国の塾の教場当たりの塾生数はこんなものでないでしょうか。

ただし、またまた「ただし」ですが、これは年度明け早々の17年4月ないし5月の数字です。12月の現時点では1割強増えていると考えた方が正しいと思われる。

さらに、これは個別も集団も自立も、また小学生対象の塾も高校生だけの予備校もごちゃまぜにした平均値です。そのあたりも含めてお考えいただければと思います。

乱暴な計算でしたが、ご参考まで……。

よい年をお迎えください。